

第 1942 圖



いたびかづら (崖石榴)

*Ficus foveolata* Wall.

var. *nipponica* Makino.

(= *F. nipponica* Franch. et Sav.)

我邦中部ヨリシテ以南ノ暖地ニ多キ常緑蔓性灌木。幹ハ分枝シ下部匍匐シテ根ヲ下シ以テ木石ニ着キ、梢部ハ枝極ヨ分チテ灌木様ヲ呈シ、枝上ニ花囊ヲ着ス、幹長2-5m内外アレドモ其極大ナル者ハ直径8cm許ニ達シ極メテ高く成長シテ多枝ヨ分チ繁葉ヲ着ケ、嫩枝ニハ細毛アリ。葉ハ有柄ニシテ互生シ、長橢圓狀披針形又ハ廣披針形ニシテ全邊、鋭尖頭、圓底ヲ有シ、長サ7-12cm、幅2-3cm許、革質ニシテ上面平滑深綠色、裏面ハ白粉色ヲ帯ビ網脈隆起シテ顯著ナリ、葉柄ハ略ボ圓柱形ニシテ長サ1-2cm許アリ。雌雄異株。夏日葉腋ニ單生或ハ雙生シテ無柄球形ノ花囊ヲ生ジ、徑10-12mm許、堅クシテ平滑無毛初メ綠色ナレドモ後チ熟シテ紫黑色ト成リ質稍軟ク、囊中ニ無數ノ小花ヲ藏ス。雌花ノ萼ハ三乃至四片、一子房、一花柱アリ。和名いたびかづらノいたびハ即チいたぶニシテいぬびハノ一者ナリ、本品ハいぬびハノ類ニテ其莖蔓狀ヲ呈スルヲ以テ斯ク云フ。

第 1943 圖



ひめいたび

一名 くらいたび

*Ficus thunbergii* Maxim.

暖地ノ林中樹幹或ハ岩面ニ著生スル攀援性ノ灌木ニシテ其幹ノ上部ハ傾上シテ往々多數ニ分枝シ、幼枝ニハ褐色ノ細毛多シ。葉ハ有柄互生、橢圓形、鋭頭、鋭底、長サ3-5cm、革質ニシテ表面ハ無毛、暗綠色、裏面ハ淡色、隆起セル脈絡顯著ニシテ葉柄ト共ニ褐毛ヲ布キ、多クハ全邊ナレドモ稀者ハ其葉往々極端ニ小形ト成リテ長サ1cm未滿ヲ算シ邊緣ハ波狀鋸齒深ク葉面頗ル瘤起ヲ呈セリ。花囊ハ球形、短柄ヲ以テ葉腋ニ單立シ徑2cm内外。いたびかづらヨリ遙ニ大形ニシテ株ニ由リ雌雄花序ヲ異ニス。果實ハ晩秋ニ入りテ熟ス。和名姫いたびハひめいたびかづらノ略ニシテ其蔓上ノ葉ハ小形ナレバ斯ク云フ、いたびハいぬびハノ一者ナリ、くらいたびハ紀州ノ方言ニシテ多分食らひいたぶノ轉訛ナラン乎。

第 1944 圖



おほいたび

*Ficus pumila* L.

(= *Plagiostigma pumilata* Zucc. ;

*F. stipulata* Thunb.)

暖地ノ山地・石崖等ニ生ズル匍匐性常緑灌木。莖ハ巨大ナラザレド灰褐色ヲ呈シテ甚ダ強靱、諸處ヨリ氣根ヲ發出シテ他物ニ吸着シ、枝極ハ更ニ分枝シテ短ク、枝上ニ花囊ヲ着ス。葉ハ密ニ繁茂シテ枝ニ互生シ、葉柄ハ褐色ニシテ粗大ナリ、葉片ハ廣橢圓形或ハ卵狀廣橢圓形ヲ成シ全邊ニシテ多少狹ク外反シ、先端ハ鈍形底部ハ截形、質厚キ革質ニシテ柔靱性ヲ帯ビ、表面ハ深綠色、稍光澤アリテ平滑ナリ。夏秋ノ候、葉腋ニ短柄アル花囊ヲ單生シ、比較的大形ニシテ倒卵狀球形或ハ球形ヲ呈シ、長サ35-45mmアリテ内部ニ多數ノ雌雄細花ヲ藏ム。雄花ハ花囊口ニ近ク存シ、絲狀小柄ヲ具ヘ、萼ハ四五片、二雄蕊アリ、雌花ハ極メテ短キ小柄ヲ有シ、萼片ハ紅色、子房ハ略ボ圓形、花柱ハ腹側面ノ頂ヨリ傾上シ橢圓ノ柱頭アリ。瘦果ハ絲狀小柄ヲ有シ略ボ球形ニシテ四五片ノ宿存萼片ヲ伴ヒ短小花柱ハ其側面ニ殘レリ。此果囊ハ硬クシテ食フニ堪ヘズ。一種クひいたび一名わせおほいたびアリテ食スベク其果囊ハ倒卵狀球形ニシテ瘦果ハ狹長橢圓形ナリ。和名大いたびハ大いたびかづらノ略ニシテ此類中ニ在テ形態大ナレバ斯ク云フ、いたびハいぬびハノ一者ナリ。

第 1945 圖



いぬびは

一名 いたぶ・いたび・こいちぢく

古名 いちぢく

*Ficus erecta* Thunb.

暖地海邊ノ丘陵或ハ村落ノ池邊・林叢中等ニ見ル落葉灌木ニシテ高さ2-4m許、樹膚平滑ニシテ灰白色ノ枝ヲ分チ、傷ツクレバ白乳汁ヲ出ス。葉ハ有柄互生シ、倒卵形或ハ倒卵狀長橢圓形、鋭尖頭、圓底或ハ截底、全邊ニシテ上面平滑、裏面ハ淡綠色ヲ呈シ葉脈明ナリ。雌雄異株。春日、枝上ノ新葉腋ヨリ花梗ヲ出シ頂ニ小ナル三苞アリ、苞内極短柄ノ頂ニ略ボ球形ナル花囊ヲ着ケ、平滑ナル囊面ニハ小白斑點ヲ散布シ、囊中ニハ多數ノ帶紅色小花ヲ容ル。雌花ノ萼ハ三乃至五片ニシテ、有柄ノ一子房、短キ一花柱アリ。雄花ノ萼ハ五乃至六片アリテ三個内外ノ雄蕊ヲ有ス。花囊成熟スレバ紫黑色ト成リテ軟ク、徑15-17mm許アリ、小兒採リテ食フ。一變種ニ狹葉ノ者アリハそばいぬびハ (var. *Sieboldii* King.) ト云フ。和名ハ大枇杷ノ意、其果實ニハ似テ小形品位下等ナレバいぬヲ加ヘ其名トス、いたび并ニいたぶハ其語原不明、小無花果ハ其果無花果ニ似テ小形ナルヲ以テ云フ。漢名 天仙果 (誤用)

あかう (雀榕)

一名 あこぎ

*Ficus wightiana* Wall.

(= *F. superba* Miq. var. *japonica* Miq.)

我邦西南方暖地ノ海邊地ニ自生スル喬木ニシテ幹ハ直立シ高さ20m許ニ達シ、大小ノ枝ヲ四方ニ擴ゲ、幹ノ大ナル者ハ徑1m内外アリテ本ハ根ヲ張リ、幹ノ周圍ヨリハ氣根ヲ出セリ。小枝ヲ傷ツレバ白乳汁ヲ分泌ス。葉ハ枝頭ニ叢生シ、長柄アリテ互生シ、橢圓形或ハ長橢圓形ニシテ短鋭尖頭、圓底、全邊、長サ10-13cm、幅5-6cm許アリ、厚キ洋紙質ニシテ上下兩面平滑無毛、中脈裏面ニ隆起シ、支脈多ク、春時ニタビ落葉スレドモ直ニ復ビ新葉ヲ出シ、狹長膜質ノ早落葉アリ。雌雄異株。春日、枝又ハ幹ニ極メテ短キ柄アル花囊ヲ單生又ハ二三群生シ徑凡12mm許アリ。花囊ハ球形ニシテ中ニ淡紅色ノ細花ヲ容レ、外面ニハ小ナル白斑點ヲ散布ス。雄花ハ雌性花囊ニ在リテ三萼片、一雄蕊アリ。雌花ハ雌性花囊中ニ在リテ三萼片、一子房、斜出セル一花柱アリ。花囊ハ熟スレバ淡紅色ヲ帯ビ白色ヲ呈シ、徑15mm許アリ。播種セバ能ク萌出ス。從來我邦ノ學者ハ本品ヲ榕樹ト爲シ、又赤榕ニ充テシモ其非ニシテ榕樹ハ同屬ガしめるノ漢名ナリ。和名ノ語原不明ナリ。

いちぢく (無花果) 一名 たうがき

*Ficus carica* L.

寛永年間我邦ニ渡來シ今ハ廣ク邦内諸州ニ培養セララル落葉樹ニシテ元來小亞細亞ノ原産ナリ。幹ハ多ク分枝シテ多ク彎曲シ褐色ヲ呈シ、高さ2-4m許アリ。葉ハ有柄ニシテ互生シ、大形ニシテ概ニ三裂シ、下面細毛ヲ布キ、基部ニ三主脈ヲ有シ、質厚シ。莖・葉等ヲ傷ツレバ白乳汁ヲ出ス。春夏ノ候、葉腋ノ短柄上ニ倒卵狀球形、厚壁ノ花囊ヲ生ジ、外面ハ平滑深綠色ニシテ内面ニ無數ノ白色小花ヲ容レ、雌花ノ區別アレドモ、我邦現在ノ栽培品ハ唯花囊中ニ雌花ノミヲ有スルノミニシテ敢テ雄花ヲ見ズ。雌花ハ概ニ三萼片、一子房、一花柱アリ。成熟花囊ハ倒卵形ニシテ長サ5cm許、暗紫色ヲ帯ブルヲ常トスレドモ又熟スルモ尚綠色ナル者アリ之レヲしろいちぢくと云フ、共ニ食用ニ供セルナル。果囊中ニ多數ノ硬キ小形瘦果アレドモ皆空虚ニシテ敢テ胚無シ。明治年間新渡品ニシテいぢく (新稱、之レヲしろいちぢくと云ヘド此ノ名既ニアリテ重複ス)アリ、即チ一變種ニシテ深裂セル掌狀葉ヲ有ス。和名 いぢくハ蓋シ本種ノ一漢名映日果ノ唐音轉化ニアラズヤト説アリ、又いぬびハナルいちぢくノ名ヲ借リ用キシト説アリ、此果一月ニシテ熟スルト謂ヒ或ハ一日ニ一顆ツツ熟スルト謂フヲ以テ一熟即チいちぢくトスルノ説ニハ予ハ贊同セズ、唐柿ハ海外ヨリ來リシカキノ意ナリ。

第 1946 圖



第 1947 圖

